

1. 木質バイオマス関連情報

■兵庫県神戸市、日揮ホールディングス(株)(神奈川、以下「日揮 HD」)、(株)レポインターナショナル(京都)、NPO 法人 Blue Earth Project、関西エアポート神戸(株)(兵庫)の5者が「SAF 製造のための廃食用油回収促進に係る持続可能な社会の構築に向けた連携協定」を締結。神戸市は 2024 年秋頃から数カ所の公共施設に使用済み食用油の回収ボックスを設置し、回収の実証を開始。これに合わせて普及に向けたイベントを開催するなど、住民向けの広報を担当する。日揮 HD は NEDO 採択事業として、コスモ石油、レポインターナショナルと 2022 年 11 月に国産 SAF の製造事業会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立。大阪府堺市にあるコスモ石油堺製油所内で SAF 製造装置の建設を進めており、2024 年内に完工、2025 年初頭に供給開始の見込み。国内で発生する廃食用油のみを原料とした日本初となる年産約 3 万klの国産 SAF 製造を計画・推進中で、使用済み食用油の供給網構築と SAF 製造を担当する。レポインターナショナルは使用済み食用油の収集と買い取りを担当、Blue Earth Project は学生の視点を生かした広報、関西エアポート神戸は回収実証設備の設置への協力を担当する予定【神戸経済ニュース：2024/07/21、日揮ホールディングス(株)：2024/06/28】

<https://news.kobekeizai.jp/blog-entry-17176.html>

<https://www.jgc.com/jp/news/2024/20240628.html>

■東急不動産(株)(東京)が保有し、東急リゾート&ステイ(株)(東京)が運営する東急リゾートタウン蓼科(長野)で、カーボンニュートラルを超えた「カーボンマイナス」を実現。タウン内に所在する蓼科東急ゴルフコースに設置している“森のバイオマスボイラー”は、タウン内の間伐材の一部をウッドチップに加工して燃料とし、ボイラーで得たエネルギーを蓼科東急ゴルフコースの大浴場の給湯に活用している。このボイラーに排煙中の CO₂ を吸収・固体化する装置を追加実装する取組みを住友電気工業(株)(大阪)と共同で実施。さらに住友電気工業が取り組んできた CO₂ と金属を原料とする素材「metacol™」の商用化の第一弾として、ゴルフティーおよびボトル&スリーブを東急リゾートタウンオリジナルブランド商品「CO₂固めちゃん

ました。」として 7 月 26 日より提供開始【東急不動産(株)、住友電気工業(株)：2024/07/25】

<https://www.tokyu-land.co.jp/news/2024/001250.html>

<https://sumitomoelectric.com/jp/press/2024/07/prs081>

■日本駐車場開発(株)(大阪、以下「NPD」)、群馬県片品村のスキー場跡地で、バイオマス発電所新設へ。同社は「2030 年 NPD グループのカーボン排出マイナス 100%」の実現に向け、2022 年にスマートグリーンエネルギー(株)(東京)以下「SGE」を設立。SGE は 1 号案件として、2023 年 8 月より栃木県那須町にてバイオマス発電を始動。そして今回 SGE の子会社として、片品村でのプロジェクトを進行するスマートグリーンエネルギー片品(株)(群馬)を新しく立ち上げ、旧ほかか牧場スキー場跡地での木質バイオマス発電所新設を決定。同スキー場は 2017 年にスキー事業をクローズしてから解体予定となっていたが発電所に転用し、発電と旧ゲレンデエリアでの植林事業を実施する。発電所の燃料である木質チップは、片品村と連携の上、切り捨て材や樹齡雑木林等、計画に則った間伐や皆伐が必要な木材資源を利用。電力は主に村の公共施設に提供する予定【PR TIMES：2024/07/25】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000075210.html>

■高知県梶原町「脱炭素先行」が困難に。梶原町議会は 7 月 23 日に開かれた臨時議会で、一般会計補正予算 31 億 7,100 万円のうち、国の交付金 18 億円余りを含む脱炭素先行地域推進事業費約 31 億 7,000 万円を削除する修正動議を賛成多数で可決。議会側の費用が増えることへの懸念を示したかたちで、再生エネルギーによる電力の地産地消を目指す「脱炭素先行地域推進事業」が暗礁に乗り上げている【高知新聞 PLUS：2024/07/26、2024/07/24】

<https://www.kochinews.co.jp/article/detail/764600>

<https://www.kochinews.co.jp/article/detail/763919>

■パス（株）（東京）、7月26日に循環資源ホールディングス（株）（東京）との間で、新たなバイオマス発電事業に関する業務提携契約を締結したと発表。パスは今後約7億2,000万円を投じ、茨城県行方市で間伐材等の未利用材を燃料とするバイオマス発電所の建設を目指す。そのほか、循環資源ホールディングスから新型木質バイオマス発電炉及びそれに付帯する独自の発電設備の製造、メンテナンス、保守、運用に関わる技術提供を受け、発電設備の販売も視野に入れる【パス（株）：2024/07/26、リム情報開発（株）：2024/07/29】
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3840/tdnet/2478296/00.pdf>
<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1778499.html>

■DeepForest Technologies（株）（京都）、森林由来のJ-クレジットシミュレーションツールを開発。J-クレジットとは、森林の所有者又は森林経営を委託された事業者等が適切な森林経営を行うことで、森林の成長による炭素吸収量を「クレジット」として販売することが可能な制度。森林経営計画を作成していれば、クレジット創出による収益化が可能だが、「計算が複雑でよくわからない」等の相談が多く、誰でも簡単にクレジット量の算定ができるツールを開発した。大まかな創出量を算出できる「【ざっくり】簡単シミュレーション」と、森林の樹種、施業予定なども入れて詳細にシミュレーションできる「【しっかり】詳細シミュレーション」があり、林分ごと年度ごとの炭素吸収量が算出可能で、収益の予測ができるようになっている【BIGLOBE：2024/07/29】
https://news.biglobe.ne.jp/economy/0729/prt_240729_7647845768.html

■山口県山陽小野田市高畑の小野田・楠企業団地内にある山陽小野田グリーンエナジー（株）（山口）の木質バイオマス発電所が完成。昨年6月から建設を進めてきたもので、今年7月1日から営業運転を開始。7月29日に開所式を実施した。同社は建設、開発事業などを手掛ける西松建設（株）（東京）の子会社として2022年4月に設立。「山陽小野田グリーンエナジー発電所」は、燦キャピタルマネージメント（株）（大阪）の関連会社である山陽小野田バイオマス燃料供給（株）（山口）を介して、主に山口県内の素材生産者によって集材される間伐材や林地残材等の未利用材を木質チップにして利用。蒸気ボイラ・タービン式で発電する。出力は1,990kW、一般家庭4,000～5,000世帯分の電力供給が可能。FITを通じ中国電力ネットワークに

売電する【宇部日報デジタル SARATTO：2024/07/30、西松建設（株）：2022/06/21】
<https://ubenippo.co.jp/2024/07/30/3961823/>
https://www.nishimatsu.co.jp/news/2022/post_57.html

■バイオマス事業巡る弁護士費用請求訴訟で第1回口頭弁論。広島県庄原市で頓挫したバイオマス事業を巡り、市が敗訴した住民訴訟で原告だった住民9人が、市に対し弁護士費用約4,360万円の支払いを求めた訴訟で、7月30日、広島地裁で行われた。市側は請求棄却を求めている【中国新聞：2024/07/30】
<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/503981>

■地震で生じた災害廃棄物を県外に運ぶ海上輸送、石川県能登町に続き7月30日からは珠洲市の飯田港でも開始。飯田港は岸壁の亀裂や陸側の地盤沈下などの復旧工事が終わり、一度に2,000 m³の廃棄物を運べる輸送船が入港可能に。船は7月30日夕方に出港し、木くずは新潟県糸魚川市の姫川港で積み下ろされた後、市内で燃料に加工されてからバイオマス発電所やセメント製造に活用される予定。珠洲市ではこれから公費による解体が本格化する見通しで、石川県の推計では57万t余りの災害廃棄物が出る見込み。仮置き場で保管できる量は限られていることから、珠洲市はこれまで行ってきた陸上での輸送に加え、船を活用することで解体が滞らないようにしたいとしている【MRO、NHK NEWS WEB：2024/07/30】
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/mro/1327790?display=1>
<https://www3.nhk.or.jp/inews/kanazawa/20240730/3020021074.html>

■静岡県西伊豆町とAGCミネラル（株）（東京）、（株）トビムシ（東京）の3者で木質バイオマス発電事業を担う地域商社「（株）西伊豆・森のエナジー」設立へ。調印式を7月31日に実施。地域内で生産される木材のうち低質材を木質チップに加工し、バイオマス発電事業に利用。2026年6月から発電した電力をFITで売電し、発電時に発生する熱エネルギーを現在重油ボイラで加熱する町の温泉配湯所に給湯熱として活用する予定【西伊豆町：2024/07/31、毎日新聞：2024/08/08】
<https://www.town.nishiizu.shizuoka.jp/forms/44/110.html>
<https://mainichi.jp/articles/20240808/dtl/k22/020/078000c>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク（千葉）が毎年発行している「バイオマス白書 2024」が完成。下記サイトよりサイト版の閲覧可。小冊子版は一冊 200 円で販売されており、購入申込可能【NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク：2024/7 月】

<https://www.npobin.net/hakusho/2024/index.html>

■国連広報センター、メディアと共同で展開している気候キャンペーン「1.5℃の約束 - いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」の一環で、SNS ムーブメント「何もしないともっと暑くなる」を 8 月 1 日より開始。欧州連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス」によると、昨年 6 月以降 13 カ月連続で月ごとの世界平均気温が観測史上最高を記録。また国連の世界気象機関（WMO）は、2024 年から 2028 年までの今後 5 年のうち少なくとも 1 年は、世界の年間平均気温が 1.5℃の上限を超える可能性が 80%あると見ている。これ以上の地球の平均気温の上昇を止めるため、その原因となる気候変動を食い止めることが必要であり、政府や企業、自治体の取り組みに加えて市民一人ひとりの行動につなげていくことが欠かせないとして SNS での発信を開始。国連が推奨する「個人でできる 10 の行動」について、8 月 1 日から 9 月 30 日までの 2 カ月間、#1.5℃の約束 #何もしないともっと暑くなる #10 の行動の 3 つのハッシュタグをつけて、SNS アカウントから紹介している【国際連合広報センター：2024/08/01】

https://www.unic.or.jp/news_press/info/50564/

■バイオマスパワーテクノロジーズ（株）、紀伊半島エリア各地でのセンダン・ヤナギ類・ナラ類・カシ類等の育苗、植林、搬出実証を本格的に開始。NEDO が進める「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業/新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業」の採択事業。同社グループで所有又は施業受託している山林約 4,000ha のうち三重県松阪市、奈良県五條市、和歌山県田辺市龍神村の他、種苗事業者である（株）古家園（三重）が所有する三重県多気郡多気町の山林からそれぞれ適地を選定。それとともに奈良県明日香村の耕作放棄地等を活用した、苗の生産や樹種選定といった研究開発項目の実証試験も進めている。川上（林業事業）から川下（発電事業）まで自前のサプライチェーンを有するバイオマスパワーテクノロジーズが実施主体となっており、苗生産、樹種選定、植林・

育林の分析は古家園に、伐採・搬出コスト低減のための苗生産・保育の状況分析、各種資料の取りまとめ等は（株）森のエネルギー研究所（東京）に委託している【PR TIMES：2024/08/02】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000114663.html>

■テスホールディングス（株）（大阪）、8 月 2 日開催の取締役会において、2024 年 6 月期（2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日）連結決算において特別損失計上を決議したと発表。同社連結子会社の合同会社熊本錦グリーンパワー（大阪）が運営する「錦町 2MW 木質バイオマス発電所」は、2023 年 9 月 30 日に発電開始。100%国産材利用のバイオマス発電事業で、熊本県人吉・球磨地方と鹿児島県北部における未利用間伐材等を併設のチップ工場でチップ化し、燃料として活用。発電容量は約 2.0MW、年間発電量は約 1,300 万 kWh。発電した電力は FIT を利用し、九州電力送配電（株）（福岡）に売電している。同発電所の建設コストの増加や、国内の未利用間伐材等のバイオマス燃料の調達価格上昇により収益性が低下。熊本錦グリーンパワーの固定資産について現在の事業環境を踏まえ将来キャッシュ・フローを見積もったところ、減損の兆候が認められた。今後の収益計画を考慮した上で、固定資産に係る回収可能性を検討した結果、減損損失 3,939 百万円を特別損失として計上することに【テスホールディングス（株）：2024/08/02、設備投資ジャーナル：2023/10/12】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2482517/00.pdf>

<https://www.setsubitoushi-journal.com/article/5509>

■NEDO、バイオマスを利用した「省エネ型エビ養殖統合システム」をベトナムで本格稼働。7 月 24 日、ベトナム南部・ティエンザン省にある現地企業 TH AQUA 社で開所式を実施。ベトナムでは多くの事業者がエビの養殖で抗生物質等を使用。ベトナム政府は化学物質から脱却し、生産性と品質の向上を図りながら持続可能なエビ養殖の構築を目指しているが、エビ養殖から出る汚泥の処理手法が確立されておらず、化学物質を含む汚泥の廃棄による河川および周辺土壌の汚染が社会的な課題となっている。NEDO 事業のシステムは、エビ養殖汚泥と現地で生産されているレモングラスの廃棄物を混合。生成されるバイオガスを燃料とした固体酸化物形燃料電池（SOFC）を用いて発電させ、養殖に必要な電力を賄う。SOFC によるエビ養殖は日本発の取り組みとしては初のケース【NEDO:2024/08/05】

https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101768.html

■文具大手のナカバヤシ(株)製造子会社「島根ナカバヤシ(株)」(島根)が、同社松江工場の敷地内でスギの苗木育成を始め、初年度は5,000ポッドを定植。島根ナカバヤシは1971年に雲市に進出して以来、現在島根県下で5工場を稼働。また2013年に松江バイオマス発電(株)(島根)を設立し木質バイオマス発電事業(発電出力6,550kW、年間発電量は約50,000,000kWh)に取り組んでいる。約90%は主に島根県産で占める国産未利用材、製材残材等を木質チップにし、88,000t/年使用。苗木生産により地域の林業振興に貢献するほか、発電事業での安定的な燃料調達につなげていきたい考え【日本経済新聞：2024/08/06、ナカバヤシ(株)：2024/08/07】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF029UU0S4A800C200000/>

<https://www.nakabayashi.co.jp/news/2024/release/1185>

<https://www.nakabayashi.co.jp/mbp/>

■岡山県倉敷市の倉敷古城池高校の生徒たちが8月6日、岡山県真庭市上河内の真庭バイオマス集積基地第2工場や同市目木のバイオマス発電などで環境学習。同高は環境学習の一環として2021年から真庭観光局が主催する「真庭SDGsバイオマスツアー」に参加しており、今回で3回目。この日は倉敷古城池高1～3年約20人が参加。真庭観光局と真庭高校が連携して育成したツアーガイド「真庭バイオマスマイスター」の認定を受けた経営ビジネス科3年生がガイド補助役、各施設の職員が案内役を務めた。参加者は市内の山で切り捨てられる木材を粉砕し燃料にする過程や、支払った燃料代が地元へ還元する仕組みについて理解を深めた【津山朝日新聞：2024/08/08】

<https://tsuyamaasahi.co.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%82%92%E5%AD%A6%E3%81%B6%E3%80%80%E5%80%89%E6%95%B7%E5%8F%A4%E5%9F%8E%E6%B1%A0%E9%AB%98%E3%81%AE%E7%92%B0%E5%A2%83%E5%AD%A6%E7%BF%92/>

■経産省総合エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会、8月7日に再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会(第66回)を開催。その中で、FITからFIPへの移行を促す新たな施策を公表。再エネ電源に対する出力制御の順番について、これまでFIT

電源とFIP電源を区別せずに、「バイオマス発電→太陽光・風力」という順番だったが、早ければ2026年度中に「バイオマス発電(FIT電源→FIP電源)→太陽光・風力(FIT電源→FIP電源)」という順番に変更する。経産省によるとFIP認定案件は、2024年3月末現在1,199件。そのうち新規が976件、FITからの移行が370件。2023年12月にバランスコストの見直しを公表(2024年4月実施)したことで、2023年度下半期にFIP認定が急増した。この変更に関し、複数の委員が既存のFIT電源の出力抑制量が増えることによる制度変更リスクへの懸念に加え、出力制御の確率が減ることでFIP電源への蓄電池併設のインセンティブが低下するといった課題を指摘。特に太陽光発電協会は反対意見を表明。経産省事務局は、事業者団体などに今後、丁寧に説明して理解を求めたいとしている【メガソーラービジネス：2024/08/08、経産省：2024/08/07】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04392/?ST=msb>

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/066.html

■愛媛県、魅力向上による誘客促進に取り組む「とべもり+(プラス)」エリアでのバイオマス発電設備導入等に向けた調査・設計業務の委託先を、(株)ダイキアクシス・サステイナブル・パワー(東京)に決定。「とべもり+(プラス)」は緑豊かな愛媛県砥部にある、えひめこどもの城・とべ動物園・愛媛県総合運動公園・えひめ森林公園の4施設からなるエリア。県は2028年度までのゼロカーボン実現を目指しており、脱炭素化と誘客促進の同時実現を図る手段の一つとして、このエリアでのバイオマス発電設備の整備を計画。県民や事業者から回収した廃食用油が原料のバイオディーゼル燃料を使用する発電所を2025年度に整備する予定【建通新聞：2024/08/08、愛媛県：2024/05/27】

https://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/240808200026.html

<https://www.pref.ehime.jp/site/nyusatsu/74269.html>

■建設業の太平電業(株)(東京)が新潟県村上市にバイオマス発電所建設へ。同社は村上市と7月29日、持続可能な地域づくりのための包括連携協定を締結。バイオマス発電所を中心に、林業・農業等の地域資源を生かし、新たな産業と雇用を創出する地域循環型社会の実現を目指すとする「グリーンプロジェク

ト」の実現に向け、村上市と連携して取り組みを進める。発電所は 2027 年度運転開始予定。農業用ハウスも併設し、燃焼で発生する CO₂ を吸収させ、燃料の木材が吸収する CO₂ と合わせて、吸収量が排出量を上回る「カーボンネガティブ」実現を目指す【新潟日報：2024/08/13、太平電業（株）：2024/07/29】

<https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/458149>
https://www.taihei-dengyo.co.jp/news/company/2024/07/post_233.html

■NEDO、2024 年度「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」の実施予定先を決定し、公表。バイオマス利用促進分野では三峰工業（株）（群馬）の「廃菌床等農業残渣系等のバイオマスから効率的にオイルを製造する急速熱分解装置の開発」が採択されている。事業期間は 2024 年度

～2026 年度【NEDO：2024/08/13】

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA3_100453.html

■青森県南部町、12 月より同町柵木地区で運開する曾我バイオマス発電（株）（青森）のバイオマス発電所に関し、工場立地基本協定を締結。8 月 19 日に調印式を実施。曾我バイオマス発電は（株）曾我産業（青森）により設立された SPC。発電所は主に青森県内や近隣の山林から搬出される林地残材、間伐材等の未利用材を木質チップにして利用。発電出力は 1,990kW。FIT により売電する。プラントは（株）タクマ（兵庫）が受注し、2024 年 11 月末完成予定【デーリー東北：2024/08/20、（株）タクマ：2022/08/30】

<https://www.daily-tohoku.news/archives/252852>

<https://www.takuma.co.jp/news/2022/20220830.html>

2. ペレット関連情報

■2023 年 9 月に爆発を伴う火災があった鳥取県米子市にある「米子バイオマス発電所」で、周辺住民が健康被害の実態調査を求める要望書を市に提出。7 月 23 日、米子市役所を訪れたのはこのバイオマス発電所周辺で暮らす 3 地区の住民 5 人。要望書では、米子バイオマス発電所が試験運転を開始した 2021 年以降騒音や粉じん、低周波の影響による住民の健康被害が深刻であるとして、米子市による実態調査を実施し公表するよう求めている。8 月 16 日には米子市の伊木市長が、9 月 4 日に開催される周辺住民とバイオマス発電所の事業者による協議会に市も参加し、今後の安全対策や健康被害の具体的な調査方法についても検討する考えを示した【日テレ NEWS：2024/07/23、日本海テレビ：2024/08/16】

<https://news.ntv.co.jp/category/society/nk2a7006a3c80e43c28d825a74185605ce>

<https://news.ntv.co.jp/n/nkt/category/society/nkf7c1ff22105841859f53d91893e10ed2>

■7 月 22 日、3 日前に爆発事故が発生した北海道石狩市のバイオマス発電所「石狩新港バイオマス発電所」で、またもや火事。22 日午後 5 時 30 分ごろ、発電所の従業員から「爆発があった場所から煙とにおいがする」と消防に通報があった。ペレットを保管する建物で熱がこもり、ペレットから煙が出ていたため、駆け付けた消防車 7 台に約 2 時間後消し止められた。け

が人はなし。今回は爆発で壊れた建物に残されていたペレットから煙が出ていたということで、消防で原因を調査中【北海道ニュース UHB：2024/07/23】

<https://www.uhb.jp/news/single.html?id=44173>

■鳥取県境港市昭和町の昭和町工業団地内で、木質バイオマス発電所「グリーンパワーさかいみなど」の建設工事が進行中。発電事業者は境港昭和町バイオマス発電合同会社。中部電力グループの合同会社 CEPCO-R（愛知）が 44.9%、丸の内インフラストラクチャー投資事業有限責任組合およびシンエネルギー開発（株）（群馬）の合併会社である（株）New Circle Energy が 25.0%、稲畑産業（株）が 20.0%、（株）中部プラントサービス（愛知）が 5.1%、NX 境港海陸（株）（鳥取）が 2.5%、三光（株）（鳥取）が 2.5%出資して設立。合同会社は発電所周辺の環境を守り、水産加工施設への影響を防ぐため、6 月に境港水産振興協会と協定を締結。それに基づき「環境保全委員会」を設立している。バイオマス発電所の燃料は当初、鳥取県産、島根県産およびその他の中国地方の未利用間伐材、一般木材、建設廃材等を原料とする木質チップとおよび木質ペレットを燃料とするとしていたが、主要燃料は全国で火災が相次いでいる木質ペレットではなく木質チップを使用するとし、環境保全委員会が周辺環境に影響が出ないよう、年に数回の立ち入り検査のほか、協定違反の場合は改善や必要な措置を講じることと

している。発電所の出力は 28,110kW、想定年間発電電力量は約 2 億 kWh(一般家庭約 6.4 万世帯分に相当)。2026 年 8 月に運開予定【山陰中央新報デジタル：2024/07/25、境港昭和町バイオマス発電合同会社：2024/06/17、中部電力(株)、日本海テレビ：2024/07/26】

<https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/615381>

<https://greenpower-sakai.com/index.html>

<https://www.chuden.co.jp/energy/renew/topics/sakaiminato.html>

<https://news.ntv.co.jp/n/nkt/category/society/nk1cbf8f7003964e889bca85105d7831b5>

■(株)レノバ(東京)、宮城県石巻市にある石巻ひばり野バイオマス発電所の竣工式を開催(7月23日)。同発電所は当初、レノバが38.0%、東京ガス(株)(東京)100%出資子会社のプロミネットパワー(株)(東京)が34.0%、ユナイテッド計画(株)(秋田)が15.0%、みずほリース(株)(東京)が13.0%出資する合同会社石巻ひばり野バイオマスエナジー(宮城)が事業主体となっていたが、2024年3月28日に発電所が営業運転を開始した翌日、レノバがみずほリースの出資持分を取得したことにより、レノバの連結子会社となった。燃料は木質ペレットとPKSを使用。発電出力は75.0MW、想定年間送電量は約53,000万kWh(一般家庭約17万世帯の年間使用電力量に相当)。発電開始以来FITで売電を行ってきたが、7月1日よりFIP制度に移行し、売電先をNTTアノードエナジー(株)に変更している。発電所の紹介動画をサイト上で公開中【(株)レノバ：2024/07/29、2024/03/28、2024/03/29、2024/07/01】

https://www.renovainc.com/development/ishinomaki_hibarino_biomass/202407_5192/

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240328_01_PRESS.pdf

https://www.renovainc.com/news/ir/pdf/20240329_01_PRESS.pdf

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240701_01_PRESS.pdf

■(株)レノバ(東京)連結子会社の徳島津田バイオマス発電所合同会社が保有する徳島津田バイオマス発電所が、7月30日に操業を再開。同発電所は木質ペレット、PKSを燃料とし、発電出力74.8MW、想定年間発電電力量約50,000万kWh(一般家庭

約15万世帯の年間使用電力量に相当)で2023年12月より運開。2024年4月に実施した定期点検の結果を踏まえて補修工事を進めていた間、停止させていた。長期間の安定稼働に向けて設備の恒久化を図るため、2024年9月下旬から2024年12月下旬(予定)に再度運転を停止し、恒久対策工事を行う予定【(株)レノバ：2024/07/31】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240731_01_PRESS.pdf

■愛媛県大洲市で建設が進められていた大洲バイオマス発電所の建設工事が完了し、8月1日営業運転開始。前田建設工業(株)(東京)が57.6%、石油資源開発(株)(東京)が35.0%、四電ビジネス(株)(香川)が6.4%、新光電装(株)(香川)が1.0%出資する特別目的会社大洲バイオマス発電(株)(愛媛)が運営を行う。発電出力は5万kW、年間発電量は約3.5億kW(一般家庭約7万世帯の年間使用電力量相当)。発電した電力はFIT制度を活用し、今後20年間四国電力送配電(株)(香川)へ売電する予定。燃料には東南アジアから輸入する木質ペレットを100%(約20万t/年)使用。前田建設がバイオマス発電所を稼働させるのは初【前田建設工業(株)、日本経済新聞：2024/08/01】

https://www.maeda.co.jp/news/blog_assets/attachments/2401/0801oosu.pdf

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC011SK0R00C24A800000/>

■出光興産(株)(東京)、2024年末までにベトナムでブラックペレット製造工場の商業運転を開始。アカシアの端材などから生産した木質ペレットを半炭化したブラックペレットで、発電所を改修しなくても30%程度まで混焼が可能とのこと。同社は2021年、ベトナムビンディン省にブラックペレット(商品名：「出光グリーンエナジーペレット™」)の商業製造プラントを建設するにあたり、同国の木質ペレット製造会社へ出資し、「Idemitsu Green Energy Vietnam Limited Company」を設立。既存の木質ペレット製造工場の敷地内に新プラントを建設するとしていた。既にプラントの1号機が竣工を終え、商業生産へ向けてカウントダウンに入っているもよう。年間生産12万tからスタートし、2030年には供給拠点を拡大して300万tに引き上げる目標を掲げている【電気新聞：2024/08/06、出光興産(株)：2021/10/21、海事プレスオンライン：2024/05/10】

<https://www.denkishimbun.com/archives/373225>
<https://www.idemitsu.com/jp/news/2021/211021.html>
<https://www.idemitsu.com/jp/2050future/keyword/blackpellet.html>
<https://www.kaijipress.com/news/tramper/2024/05/183991/>

■(一社)日本ペレットストーブ工業会(富山)、9月25日(水)に第1回『ペレットストーブ設置資格者認定講習会』をビジョセンター東京日本橋(東京)にて開催。2025年4月より、全ての新築建築物に省エネ基準適合が義務化され、それに伴いペレットストーブが省エネ機器として認定される見込みとなっている。工業会は、顧客が安心して任せられる技術者を認定する制度として、『ペレットストーブ設置資格者認定制度』を制定。省エネ基準適合建物に採用される適合ストーブの設置に関しては、『ペレットストーブ設置資格者認定講習会』を受講した認定資格者が安全かつ確実に、未経験者や知識不足による間違った施工や建築物の省エネ性能低下の抑制にも繋がれらばと考えている。講習会の対象は、同工業会会員の社員。先着70名で受講者を募集しており、事前に申し込みが必要。講習会内で認定試験を行い、後日合格者には認定証が発行される。また

今年度内に第2回講習会も関西または中京地域で開催する予定
【(一社)日本ペレットストーブ工業会:2024/08/19】
<https://pstove.jp/>

■北海道電力(株)(北海道)、北海道厚真町にある苫東厚真火力発電所4号機で、ブラックペレットを石炭と混焼する実証試験を11月にも開始へ。同発電所は2022年6月に運転開始し、石炭のみを燃料として出力は70万kW。ここに重量ベースで全体の10%前後に相当するブラックペレットを混ぜる。CO₂排出量が多い石炭火発について、北海道電力は道内3カ所のうち2カ所を廃止し、苫東厚真は当面混焼で稼働させる方針。燃焼時にCO₂を排出しないアンモニア混焼の準備を進めつつ、木質バイオマス混焼にも取り組み、CO₂削減を加速。2030年度の実用化を視野に入れている【日本経済新聞:2024/08/20、北海道電力(株)、北海道新聞:2024/08/16】

<https://www.nikkei.com/nkd/company/article/?DisplayType=1&ng=DGKKZ082867630Z10C24A8L41000&scode=9509>
https://www.hepco.co.jp/energy/fire_power/coal_fired.html
<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1051355/>

3. イベント情報(国内)

◎:木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■(認定NPO法人)環境ネットワーク埼玉「【第22回・環境問題の現状と将来を展望するセミナー】カーボンニュートラル&ネイチャーポジティブ ~脱炭素と自然再興の同時達成を目指して~」

2024年9月3日(火)

大宮ソニックビル9F、906号室(埼玉県)/オンライン

<https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/archives/1879>

■(一社)産業環境管理協会産業と環境の会センター「森林・水の活用と保全の推進等に関するシンポジウム」

2024年9月5日(木)

AP新橋3階Bルーム(東京)/オンライン

<https://www.sankankai.com/sym240905.shtml>

■環境省「IPCCシンポジウム『IPCC第7次評価報告書に向けて~暑すぎる地球で暮らす私たちにできること~』の開催について」

2024年9月12日(木)

虎ノ門ヒルズフォーラムホールB(東京)/オンライン

https://www.env.go.jp/press/press_03591.html

■(特非)日本環境倶楽部 環境セミナー「日本のエネルギー政策の方向性を考える」~2040年に向けた新たな脱炭素への提言~

2024年9月13日(金)

ZOOM

<https://www.kankyoclub.or.jp/event/2409-1.html>

■広島大学「第15回バイオマスプレミアムイブニングセミナー(第145回広大ACEセミナー)」

2024年9月17日(火)

ZOOM オンライン

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/recurrent/hirodai-1012126.html>

■EPO 北海道「連続企画『地域のための気候変動対策・自然再興とは?』第3回 再生可能エネルギーで地域が豊かになるために～『漏れバケツ』からの脱却に向けて

2024年9月18日(水)

ZOOM オンライン

<https://epohok.jp/event/18242>

■産経新聞社「FORESTRISE 2024(第4回次世代森林産業展)」

2024年9月18日(水)～9月20日(金)

東京ビッグサイト 東ホール(東京都江東区)

<https://www.forestrise.jp/2024/index.html>

■全国森林組合連合会「人財と林業を結ぶシンポジウム」

2024年9月19日(木)

東京ビッグサイト会議棟(東京都江東区)

https://www.zenmori.org/topics/files/543_file1.pdf

◎(一社)日本ペレットストーブ工業会 第1回『ペレットストーブ設置資格者認定講習会』

2024年9月25日(水)

ビジョンセンター東京日本橋(東京)

<https://pstove.jp/>

※対象は会員のみ

■NPO 法人九州バイオマスフォーラム、他「九州バイオマスシンポジウム・視察研修ツアー『九州のバイオマス利用の課題と展望』」

・2024年9月30日(月)シンポジウム@くまもと森都心プラザ プラザホール(熊本)

・2024年10月1日(火)視察研修ツアー@熊本県内

・2024年10月2日(水)オプションツアー@熊本県内

<https://kbiomass.org/%E4%B9%9D%E5%B7%9E%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E3%83%B5%E3%83%96%E5%AF%9F%E7%A0%94%E4%BF%AE%E3%83%84%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%80%8C/>

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」

2024年10月2日(水)～4日(金)

幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

■(特非)地球緑化センター「参加者募集! / 10月開催 フェリーに乗って行く森林ボランティア◆東京都・三宅島」

2024年10月11日(金)夜発～13日(日)

東京都三宅島

<http://www.n-gec.org/news/2024-05-28.html>

■(一社)林業機械化協会「2024第47回全国育樹祭開催記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会」

2024年10月20日(日)～21日(月)

福井県スキージャム勝山(福井県勝山市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/news/view/150>

■再エネ熱利用促進協議会「再エネ熱オンライン講座 入門編」

2024年10月23日(水)

ZOOM ミーティング

<https://preview.studio.site/live/xmaZZVyraR/2024Saienekoza>

◎ペレットクラブ設立20周年記念シンポジウム「日本のペレット20年の歩みとこれからの社会」

2024年10月25日(金)

東京大学弥生講堂一条ホール(東京都文京区)

<https://pelletclub.jp/>

■(一社)Forward to 1985 energy life 第12回全国省エネミーティング in ひろしま「住宅省エネ化から2050年カーボンニュートラルを目指そう～北海道・長野・横浜・鳥取の先進事例とそこで見えてきた課題から学ぶ～」

2024年11月12日(火)

広島県民文化センター多目的ホール(広島) / オンライン配信

<https://epo-cg.jp/blog/241112shoenemeeting12/>

◎RX Japan(株)「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」

2024年11月20日(水)～22日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

■CMT「産業エネルギー グリーントランジション 2024」

2024年12月3日(火)～5日(木)

東京マリオットホテル(東京)

<https://cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=241221&>

◎RX Japan(株)「BIOMASS EXPO バイオマス展」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

◎RX Japan(株)「SMART ENERGY WEEK 春」

2025年2月19日(水)～21日(金)

東京ビッグサイト東・南ホール(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎日報ビジネス(株)「2025 NEW 環境展/2025 地球温暖化防止展」

2025年5月28日(水)～30日(金)

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報(海外)

■Bioenergy for Flexibility in Energy Systems

2024年9月2日(月)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/822/47/Webinar-Bioenergy-for-Flexibility-in-Energy-Systems/>

■24th Congress for Wood Energy

2024年9月23日(火)～24日(水)

ヴェルツブルク(ドイツ)

<https://www.fachkongress-holzenergie.de/>

■Progress in Biogas VI

2024年9月2日(月)～4日(水)

シュトゥットガルト(ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■International Training Seminar: Sustainable Bioenergy Heating - Market development and technologies

2024年9月23日(火)～26日(金)

リンツ(オーストリア)

<https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating-2024>

■European Biomass to Power 2024

2024年9月11日(水)～12日(木)

ヘルシンキ(フィンランド)

<https://www.wplgroup.com/aci/european-biomass-to-power-2024-helsinki-agenda/>

■6th BIOGAS POWER ON

2024年9月25日(木)～26日(金)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://fortesmedia.com/biogas-power-on-2024,4,en,2,1,100.html>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月11日(水)～13日(金)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

■Transport Biofuels Conference

2024年9月25日(木)～26日(金)

オストルダ(ポーランド)

<https://kib.pl/en/konferencja-2/>

◎2024 Wood Pellet Association of Canada Conference

2024年9月17日(火)～18日(水)

BC州ビクトリア(カナダ)

<https://www.wpac-agm.org/>

◎Svebio Fuel Market Day

2024年9月30日(月)

ストックホルム(スウェーデン)/オンライン

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebio-fuel-market-day-3-2/>

■Renewable Gas Trade Fair 2024

2024年10月1日(火)～2日(水)

バリャドリード(スペイン)

<https://salondelgasrenovable.com/en>

■Valorising Oil Palm & Agri Waste Feedstocks

2024年10月1日(火)～2日(水)

ジャカルタ(インドネシア)

<https://cmtevents.com/main.aspx?ev=240925&pu=305621>

■Indonesia Sustainable Biofuels

2024年10月2日(水)～3日(木)

ジャカルタ(インドネシア)/オンライン

<https://www.cmtevents.com/enquiry.aspx?ev=241028&>

■Bio-Energy Pavilion 2024

2024年10月3日(木)～5日(土)

グレートノイダ(インド)

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2024/>

■Value of Biogas West 2024

2024年10月7日(月)～9日(水)

バンクーバー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2024west/>

◎Biomass Power ON 2024

2024年10月9日(水)～10日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2024,4,en,2,1,101.html>

■IrBEA's 23rd National Bioenergy Conference 2024

2024年10月10日(木)

ダブリン(アイルランド)

<https://www.nationalbioenergyconference.ie/>

■European Biomethane Week

2024年10月21日(火)～25日(土)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiomethaneweek.eu/>

■BBEST- IEA Bioenergy Conference

2024年10月22日(水)～24日(金)

サンパウロ(ブラジル)

<https://bbest-ieabioenergy.org/>

◎USIPA 2024 Conference

2024年11月3日(日)～5日(火)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://usipaconference.com/>

■Ecomondo2024

2024年11月5日(火)～8日(金)

リミニ(イタリア)

<https://en.ecomondo.com/>

■COP29

2024年11月11日(月)～22日(金)

バクー(アゼルバイジャン共和国)

<https://unfccc.int/cop29>

■2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024年11月19日(火)～20日(水)

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://2024->

nccbbconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home

■European Bioenergy Future

2024年11月20日(水)～21日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-european-bioenergy-future-2024.html>

■10th International Symposium on Energy from Biomass and Waste

2024年11月25日(月)～27日(水)

ヴェニス(イタリア)

<https://www.venicesymposium.it/>

■Future of Biogas Europe Summit 2024

2024年11月27日(水)～28日(木)

バルセロナ(スペイン)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

◎8th Biomass & Bio Energy Asia

2024年11月27日(水)～28日(木)

ホーチミン市(ベトナム)

<https://cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=241120&>

■European Biocarbon Summit 2024

2024年12月3日(火)～4日(水)

アムステルダム(オランダ)

<https://www.hawkinswright.com/european-biocarbon-summit>

◎Nordic Pellets Conference 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2025/>

■Bio360 2025

2025年2月5日(水)～6日(木)

ナント(フランス)

<https://www.bio360expo.com/lang/en>

◎World Sustainable Energy Days 2025

2025年3月5日(水)～7日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/>

◎International Biomass Conference & Expo

2025年3月18日～20日

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://2025->

[bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home](https://www.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home)

■EXPO BIOMASA

2025年5月6日(火)～8日(木)

バリャドリード(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■Elmia Wood

2025年6月4日(水)～7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 2024年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報(都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◇札幌市「再エネ省エネ機器導入補助金制度 第2回募集」

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/energy/hojo/kiki.html>

※申込期間: 2024年9月2日～11月6日

【岩手】

◇一戸町「一戸町薪ストーブ普及促進事業」

https://www.town.ichinohe.iwate.jp/soshikikarasagasu/norinka/rikyoshinkokakari/1_1/713.html

【長野】

◆飯山市「飯山市森のエネルギー推進事業補助金」

<https://mykoho.jp/article/%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C%E9%A3%AF%E5%B1%B1%E5%B8%82/%E5%BA%83%E5%A0%B1%E9%A3%AF%E5%B1%B1-%E4%BB%A4%E5%92%8C6%E5%B9%B47%E6%9C%88%E5%8F%B7/%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%96%E3%81%AA%E3%81%A9%E3%81%AE%E8%B3%BC%E5%85%A5%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E9%87%91%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85-2/>

◇軽井沢町「令和6年度 木質バイオマス循環利用普及促進事業（ペレットストーブ設置事業）補助金」

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/www/contents/1575445888146/index.html>

◆原村「原村森のエネルギー推進事業補助金」

<https://www.vill.hara.lg.jp/docs/55885.html>

◇松川村「松川村木質バイオマス循環利用普及促進事業補助金」

https://www.vill.matsukawa.nagano.jp/reiki_int/reiki_honbun/e797RG00000590.html

【高知】

◇仁淀川町「仁淀川町木質ペレットストーブ設置費補助金」

https://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000863.html

6. 公募等情報（締切順）

■NEDO「2024年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業』に係る第2回公募について」

受付期間：2024年8月19日（月）～9月19日（木）

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100405.html

■NEDO「2024年度「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」（未来型新エネ実証制度）に係る公募について」

受付期間 2024年8月9日（金）～9月20日（金）

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100407.html

■緑の地球防衛基金「2025年度地球にやさしいカード助成金交付団体の募集」

募集期間 2024年8月1日（木）～9月30日（月）

https://green-earth-japan.net/act_card.html

■農水省「令和6年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」

募集期間 2024年6月20日（木）～10月31日（木）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/240620.html

■（公財）滋賀県産業支援プラザ「令和6年度 省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

受付期間 2024年4月30日（月）～11月29日（金）

<https://www.shigaplaza.or.jp/news/hojokin-co2-240430-1129/>

■広島県「令和6年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 ～2024年年12月20日（金）まで

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■（公社）日本ナショナル・トラスト協会「第20期ナショナル・トラスト活動助成」

2024年4月1日（月）～2025年3月31日（月）

<http://www.ntrust.or.jp/subsidy/index.html>

■福島県福島市「燃油を使用しないハウス暖房設備等の導入費用を助成します」

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

※2025年3月31日までに事業を完了すること

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukouyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

■千葉県市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece4651c88c1880a>

■NEDO「2024年度第2回『新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業』（新エネ中小・スタートアップ支援制度）に係る公募について」【予告】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100413.html

※公募期間は2024年9月上旬～10月下旬の予定